

飯島賢二の『恐縮ですが…一言コラム』

第 479 回 「善悪」と「正否」のはき違い？

2012.7.1

昔は、「善悪」とか「正否」とか、恐らく真理的なもので、はっきりと分かりやすかったような気がする。どうも最近、良く分からない。

人の前で「嘘」を言ってはいけません。「嘘」は泥棒の始まりですよ！

親からも、学校の先生からも、毎日のように言われた覚えがある。

マニフェストとは、政党と国民(有権者)との約束のはず。

マニフェストに書いた政策の実現を目指すのが政党、目指さないのは「嘘」である。

国会議員を辞める…といった鳩山元総理は未だに辞めていない。

原発を無くすといった菅前総理の政党は、今度は再開するという。

事業仕訳は、名主役・元タレント蓮舫の政治ショーで終り、結果の検証はない。

最低でも県外へ…沖縄の人を愚弄(ぐろう)し、有権者を騙(だま)し続けた甘言(かんげん)は、詐欺罪という犯罪ではないのか？

コンクリートから人へ…カッコいい言葉をスローガンにした与党は、増税と負担増のラッシュの近未来を勝手に作り上げ、「人」とは誰のためのことを指すのか、全く分からない。

「嘘」だらけの政権の中で、小沢一郎被告人の一派だけが唯一「信念」を貫くように見えてしまう…これもどうも、嘘っぱい。

間違いは素直に認め、人への感謝を込め、謝りなさい！

昔の先生は、こう、我々を諭(さと)してくれた。

具体性もなく、口先だけの公約をいつまでも言い続け、攻められると反省するどころか相手を批判しだす…日本人として最も卑(いや)しい振る舞いで、昔だったら蔑(さげす)んだ行為と軽蔑された。岡田や前原という連中は、反省や謝罪の心を持っていない。

約束も出来ないことがある、情勢が変わり戦略を変えることも正しい場合があるだろう。そうであるならば、反省と謝罪と説明が前提にあるはず。突如として、全く約束しなかった消費増税に「政治生命を懸ける」と言い出した駄々っ子総理に、戸惑いを隠せない。政治生命とは、議員を辞めることなのか、どうなのか、誰も問い質(ただ)さない。

世の中で一番みじめなのは、人間として教養のないことです！

何年前か知らないが、要は浮気がバレ反社会的勢力、要は暴力団関係者に脅され1億円を払ってしまった、原辰徳本人が認めている。こんな人が、青少年が目指す憧れの巨人軍の監督を務めている事実。それを仲介したのも現役プロ野球監督・中畑清。

よせばいいのに、「原君はむしろ被害者だよ、女性問題？そんなのはとっくに時効だ！」と喚(わめ)く、老害でしかない無教養人・渡辺某。読売新聞も、巨人軍も、彼が目立つ限り、「張り子の虎」でしかないこと、ジャイアンツファンクラブ会員の一人として残念でならない。

どうも最近、腹が立って仕方がない。

その原因は「善悪」と「正否」のはき違いにあるような気がした。このイライラは小生だけなのだろうか？誰も怒らないし、誰ひとり正さない…

これが現代日本人の「道徳」になっているのだろうか？